

神社・寺が丁寧に
保持されている

時間の流れを想う



神社・寺の記号を頼りにまちを歩いてみて、昔の風景が丁寧に保持されていると感じられるような場合、そこには昔の時間が露出していると考えることができる。「いま」と「昔」が協調的に併存している場所として眺めてみよう。あたらしい道や建物が、「昔」を取り囲むようにつくられてきたことも多いはずだ。わかりやすい「時層」を確認することはできるだろうか。「いま」と「昔」の境界を発見することは、さまざまなストーリーを想起させる。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

通行止めのフェンスがある



紛争・交渉を想像する



今昔の視点で
まちをみる
まち観の型ことば

2

ガードレールや通行止めのフェンスで、行く手を遮られることがある。まちには、人びとのアクセス可能性を規定する、さまざまな方法や仕掛けがある。もし、土地の輪郭が不自然に変型していたり、幾重にもフェンスが設置されていたりするような場合、その近辺をめぐる「ハプニング」を想像してみよう。それは、人為的な計画に対する想いの表れとして理解することができるかもしれない。時間を経て、その想いが場所に定着していることもある。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

土地の輪郭が不自然に変化している



何らかの「計画」を想う



今昔の視点で
まちをみる
まち観の型ことば

3

土地の形状の不自然な変化は、まちの風景が変わっていく兆しとして理解することができる。たとえば、道路工事の計画のために、事前に道のカーブの形状が変わっていたり、区画の一部がフェンスで囲まれていたりする場所はないだろうか。地図を参照しながら、隣接する区画を多方向から眺めてみよう。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

神社・寺への
アプローチ



時間の変化を感じ
る



今昔の視点で
まちをみる
まち観の型ことば

4

神社・寺は、コミュニティにおいて、静寂の場である。境内へのアプローチにも注目しよう。広い通りから少し奥まった所にある境内は、あたらしい建物に囲まれ、壁に守られているかのように存在していることが多い。そこは、時間が止まり、かつての風景を感じることができる場だと言えるだろう。いっぽう、（おそらくは区画の一部を犠牲にした結果として）通りに面している境内は、ある種の調整・妥協・決断の所産としていまある姿をしているはずだ。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

神社・寺の
スタイルをみる

×
変化への対応を想
う



今昔の視点で
まちをみる
まち観の型ことは

5

近代的な建物に建て替えられ、「いま」に合わせた形の神社・寺もある。コミュニティにおける役割自体は変わらないが、実態的な部分に変容している。これは、時間の経過とともに変化していくまち並みに、適応・順応していった結果として理解することができる。その意味においては、コミュニティのサバイバル能力ともいうべき力について、考えるきっかけになる。変化の方法も多様である。

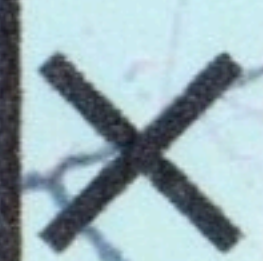
【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

神社・寺が整然と
保たれている

まちの気品を感じ
よう



今昔の視点で
まちをみる
まち観の型ことは

6

佇まいが綺麗に保たれている神社・寺が近接・隣接しているようなエリアは、歩いていて、落ち着いた気分になる。場所が放つ気品ともいえるべきものさえ感じられることがある。「グッドプレイス (good place)」は波及し、広がりをもつ。こうしたエリアが保たれていることは、まちのアイデンティティの強さの証かもしれない。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

神社・寺の痕跡が
ある

まちのアイデンティ
ティについて考える

井住友銀行
専用駐車場
←鳥居を入る

今昔の視点で
まちをみる
まち観の型ことば

7

かつての神社・寺の痕跡だけが残し、まわりの風景とある種の不調和を感じさせるような場合、それはまち並みに変化していく予兆かもしれない。まちの静寂、あるいは癒しの場としての機能が保たれなくなり、大がかりな開発によって変貌する可能性がある。たとえば、取り残された鳥居や石段の名残は、かつての集いの場が書き換えられた手がかりである。だが、完全に消し去られていないとするならば、まだ微かながらもコミュニティの力が残っていると考えることもできるだろう。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

道路の向きや交わり
に目を向ける

人びとの移動や居場所
について考える



地図や航空写真は、ひと頃にくらべてずいぶん手軽に使えるようになった。実際にまち歩きに出かける前に、地図（航空写真や地形図）を眺めておくことも大切だ。たとえば、道路の向きや交わりに目を向けてみよう。もっともシンプルな方法だが、人びとの移動の可能性（方向）がわかるだろう。また、道路の交わりによって生まれた区画のサイズや形を見れば、人びとがどのような住まい方をしてきたかについて想像することもできる。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

土地の形状や大きさに注目する



人びとの住まいや関係性について考える



地図は
こう観る
まち観の型ことば

9

地図上で見ているだけで、変わった形状、サイズのエリアがあることに気づく。道路、公園、街区など、俯瞰して不自然に見えるところは、フィールドワークの〈入り口〉になる。それに合わせて、路地の方向、蛇行、川との関係などについて整理してみよう。地図には、自然（地形）の成り立ちだけではなく、人工的に手が加えられた結果も反映されている。それらが交錯する地点を目指して歩こう。

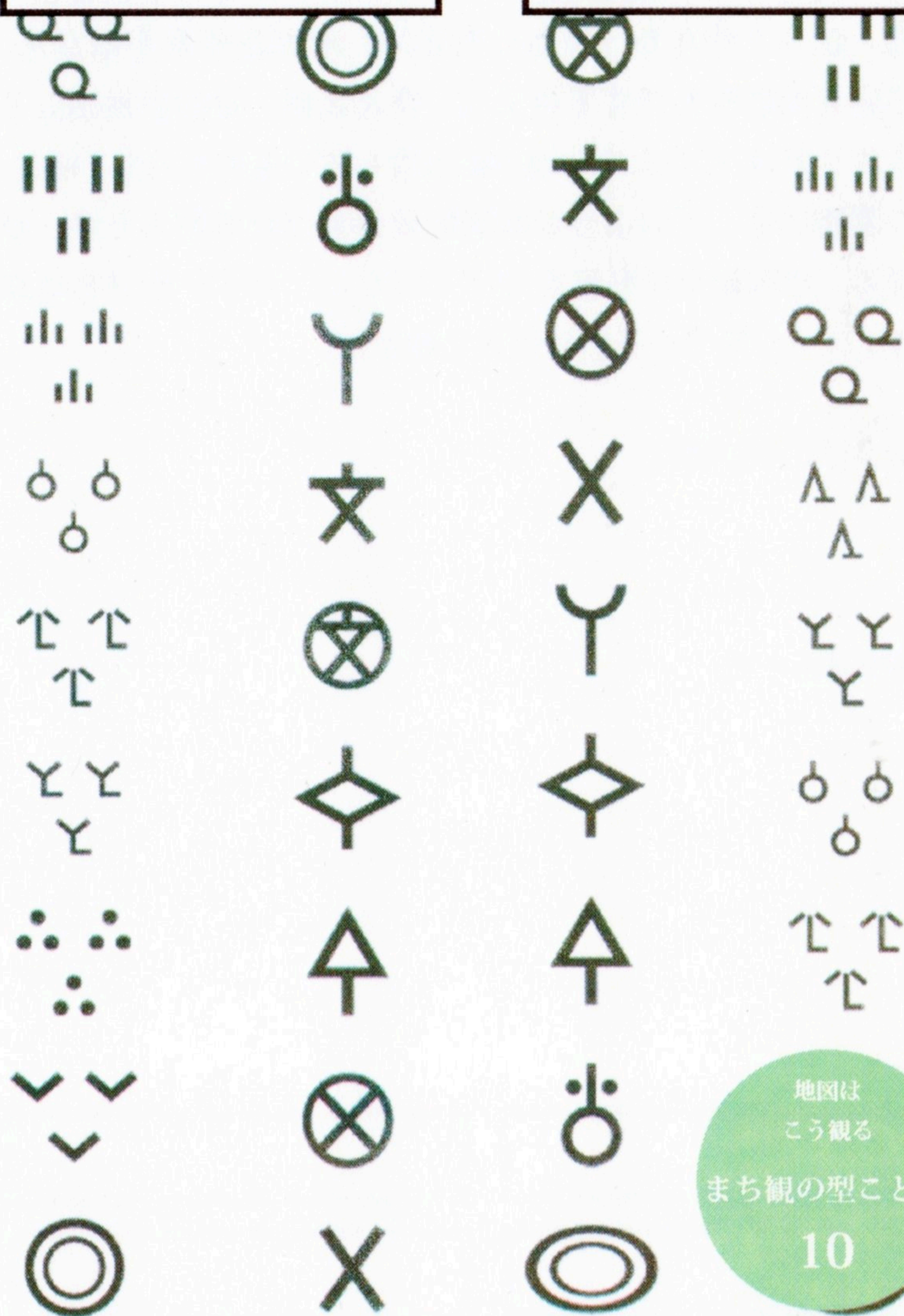
【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

地図記号の分布に
目を向ける

場所に付与された、さ
まざまな機能について
考えよう



地図には、さまざまな情報が埋め込まれている。道路の形状やつながり、あるいは地形の条件ばかりでなく、どのような（社会的）機能が、まちに分布しているかがわかるようになっていく。かつて憶えた（かもしれない）地図記号を見ながら、まち歩き計画を立ててみよう。たとえば、学校が集積しているエリアは、どのような場所に位置しているだろうか。神社・寺の周囲には、どのような地図記号が見つかるだろうか。歩く前に、地図記号にも目を向けておくと、わずかながらもまちのイメージをつくるのに役立つはずだ。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

水路の痕跡が複数
ある道



風を感じ、風が運ぶ
まちの匂いを感じる



五感で
まちをとらえる
まち観の型ことば

かつての川や水路は風の通り道になっていることが多い（型ことば 14 参照）。風は周りのまちの匂いや気配を運ぶ。早朝近くのお寺の線香が漂ってきたり、夕刻どこかで秋刀魚を焼く匂いにそそられたり、触覚嗅覚に敏感になって周辺にも思いを馳せてみれば、まちの繋がりがみえてくる。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

台地と低地



湿度の違いを感じる



五感で
まちをとらえる
まち観の型ことば

12

水は低きを求める。川や水路が流れる低地は湿っぽい。一方、台地は乾いている。流通の弁のいい低地には商人が、坂を上った台地には商う相手の武家が住まうというのが江戸の一般的構図だった。坂をゆっくり登ってみると、湿度も植生も徐々に変わることが感じられるはずだ（型ことば 36 参照）。鬱蒼と茂る低地の草木と、楚々と疎らに生える台地の草木は趣が全く違う。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

水路の痕跡がある道



水音の痕跡を探し、
音が人を引き寄せる
シーンを想う



五感で
まちをとらえる
まち観の型ことば

13

水路が埋められ下水となった谷道では、いまでも轟々と水音が聴こえる。土地の起伏に合わせて水路が急流だった場所には、水車小屋があったなんてこともある。ゴトゴトカクン、水車の音は心地よい。水路に沿ってコミュニティが延びる（型ことば 27 参照）のも、水路に向かって下る斜面を借景にする（型ことば 37 参照）のも、心地よい音が為せる業だろう。水車小屋はブラザ的な溜り場だったに違いない。水音の痕跡を探して音が人を引き寄せるシーンを想えば、かつての繁栄が目に見えよ。

【たとえばこんな場所】

①35.7041N, 139.7263E

②35.6291N, 139.6774E

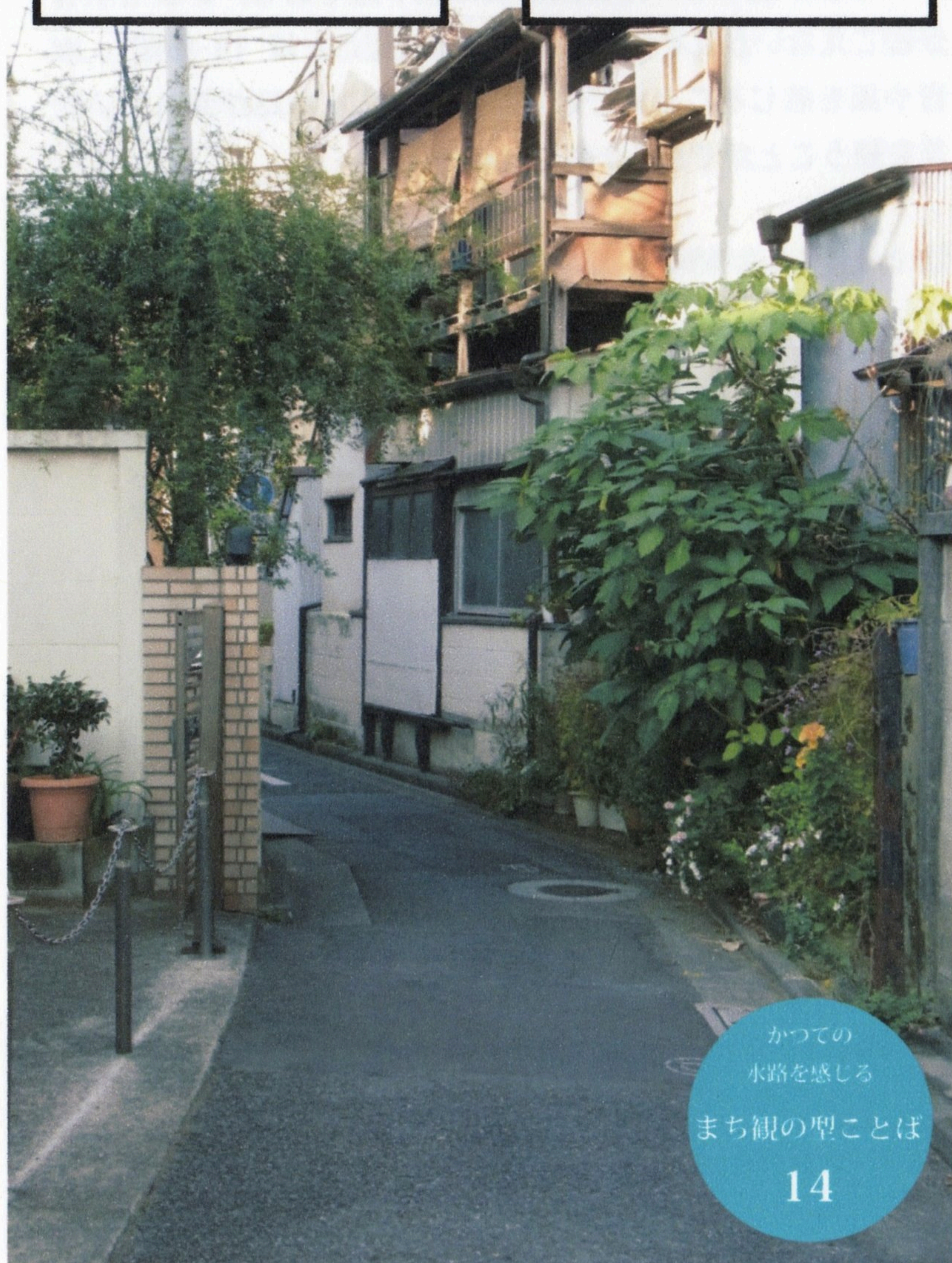
【関連するカード】

【キーワード】

谷筋の路地



水路の痕跡を探し、
風を感じる



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

14

周りの土地に比べてそこだけ低くなっている谷筋の路地があったら、水路の痕跡(型ことば 14~26 参照)を探してみよう。かつて水が通っていた谷筋は風の通り道である。いまでも水音が聴こえないか耳を澄ませてみよう(型ことば 13 参照)。水音や風を感じることができれば、ますます水路が流れていた昔を想うことができるかもしれない。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

狭い道の幅が不規則に
変化する箇所がある

×
かつての水路である
ことを感じる



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

15

かつての水路が埋め立てられ現在は下水管として機能している道は、道幅がところどころ不規則に変化することが多いようだ。そんな痕跡を見つけたら、マンホールや排水溝をみつけて（型ことば 22 参照）、水の流れを感じよう。かつての水路を示唆する他の痕跡（型ことば 14～26 参照）もその道に存在するなら、水路であった確率はますます高いはず。

【たとえばこんな場所】

- ① 35.7041N, 139.7262E
- ② 35.6011N, 139.7140E
- ③ 35.5995N, 139.7311E

【関連するカード】

【キーワード】

舗装が道幅方向に
平坦でない

×
かつての水路である
ことを感じる



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

16

かつての水路が埋め立てられ現在は下水管として機能している道は、埋め立てがでこぼこであったり、道幅方向に微妙な傾斜があったりする。そんな痕跡を見つけたら、マンホールや排水溝をみつけて（型ことば 22 参照）、水の流れを感じよう。かつての水路を示唆する他の痕跡（型ことば 14～26 参照）もその道に存在するなら、水路であった確率はますます高いはず。

【たとえばこんな場所】

①35.7038N, 139.7262E

②35.6280N, 139.6925E

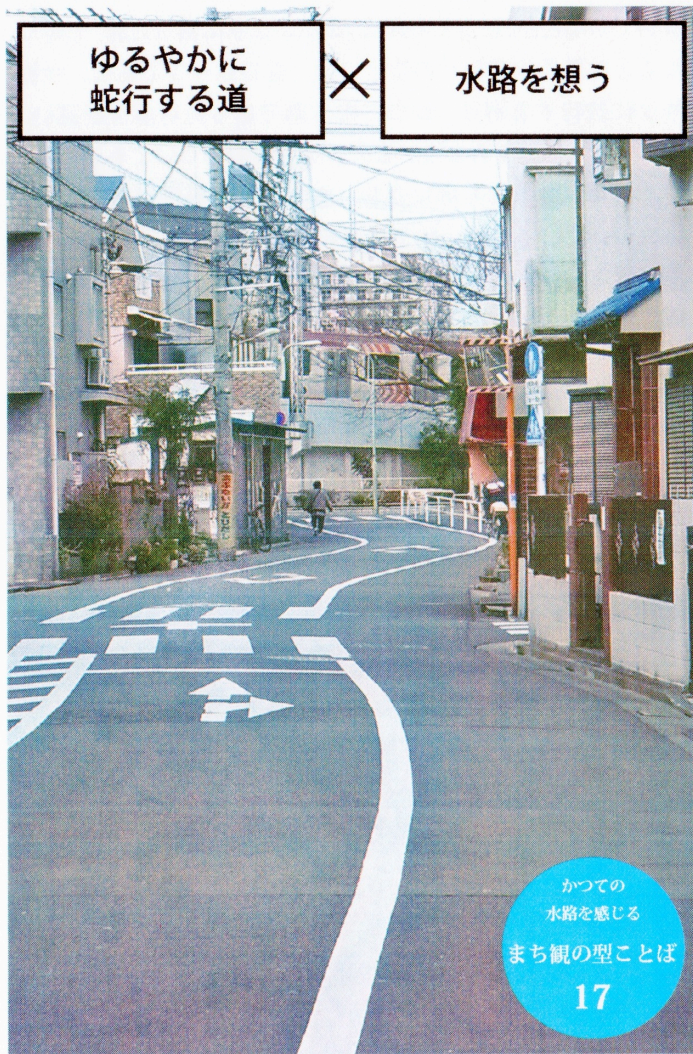
【関連するカード】

【キーワード】

ゆるやかに
蛇行する道



水路を想う



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

17

歩いている道が、かつての水路（あるいは水に沿った道）であったことを知る手がかりのひとつは、道のカーブである。ゆるやかに蛇行する道は、かつての水路であった可能性が高い。水の流れて感じてみよう。また、道の傾斜についても注目し、たとえば、道の真ん中に立ち、左右の高さを比べてみよう。いま歩いている道は、かつての水路だったのか、それとも側道だったのか。微妙な傾きから、水と道路との位置関係について考えることもできる。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

道が交差点でクランク状にずれている

かつての水路であることを感じる

かつての水路が埋め立てられ現在は下水管として機能している道は、交差点でクランク状にずれて続いていることがある。クランク状の交差点を見つけたら水の流れに思いを馳せてみよう。交差点の形に敏感になって歩くのは実に楽しい。ずれてできたスペースに大きな木が生えていたりすれば、かつての水路である可能性は高い（型ことば 24 参照）。かつての水路を示唆する他の痕跡（型ことば 14～26 参照）も探してみよう。

【たとえばこんな場所】

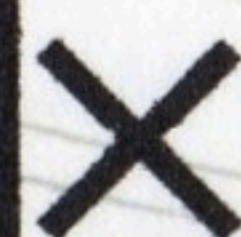
【関連するカード】

【キーワード】

かつての
水路を感じる
まち観の型ことば
18

交差点の角が丸く / 斜めに切り取られている

水路がその方向に曲がっていた痕跡を探してみる



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

19

交差点の角が丸く、もしくは斜めに切り取られていることがある。縁石の形や建物のファサードにそれが現れている。そこはかつての水路であったこと、角が切り取られている方向に水路が曲がっていたことの痕跡だろう。水路が曲がる場所は人が集まり栄えたスポット（型ことば 28 参照）であったからこそ、角を切り取って交差点の面積が広くしたのかもしれない。交差点の形に敏感になろう。そしてこのような場所をみつけたら、交差点の両側に水路の痕跡を探してみよう。

【たとえばこんな場所】

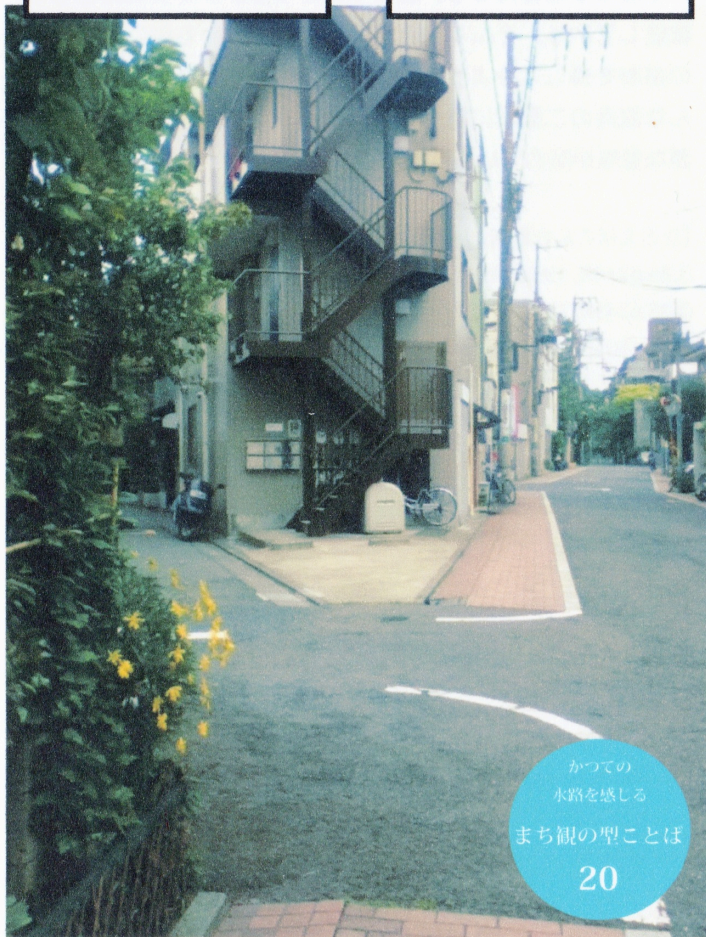
【関連するカード】

【キーワード】

交差点の角が丸く / 斜めに切り取られている



水路がその方向に曲がっていた痕跡を探してみる



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

20

水路があれば、周辺の土地に水を運ぶ分水路もあったに違いない。水路の形がS字やU字であった賑わいの地（型ことば 34 参照）の傍に、水路と直角に分水路が形成されたとしても不思議ではない。その中心地の傍に直角に交わり長く続く道を探し、水路の痕跡を見つけよう。痕跡がみつかったらその方向へのコミュニティ感の滲み出し（型ことば 27 参照）を想うことができる。

【たとえばこんな場所】

- ①35.6243N, 139.6983E
- ②35.6244N, 139.6945E
- ③35.6297N, 139.6723E

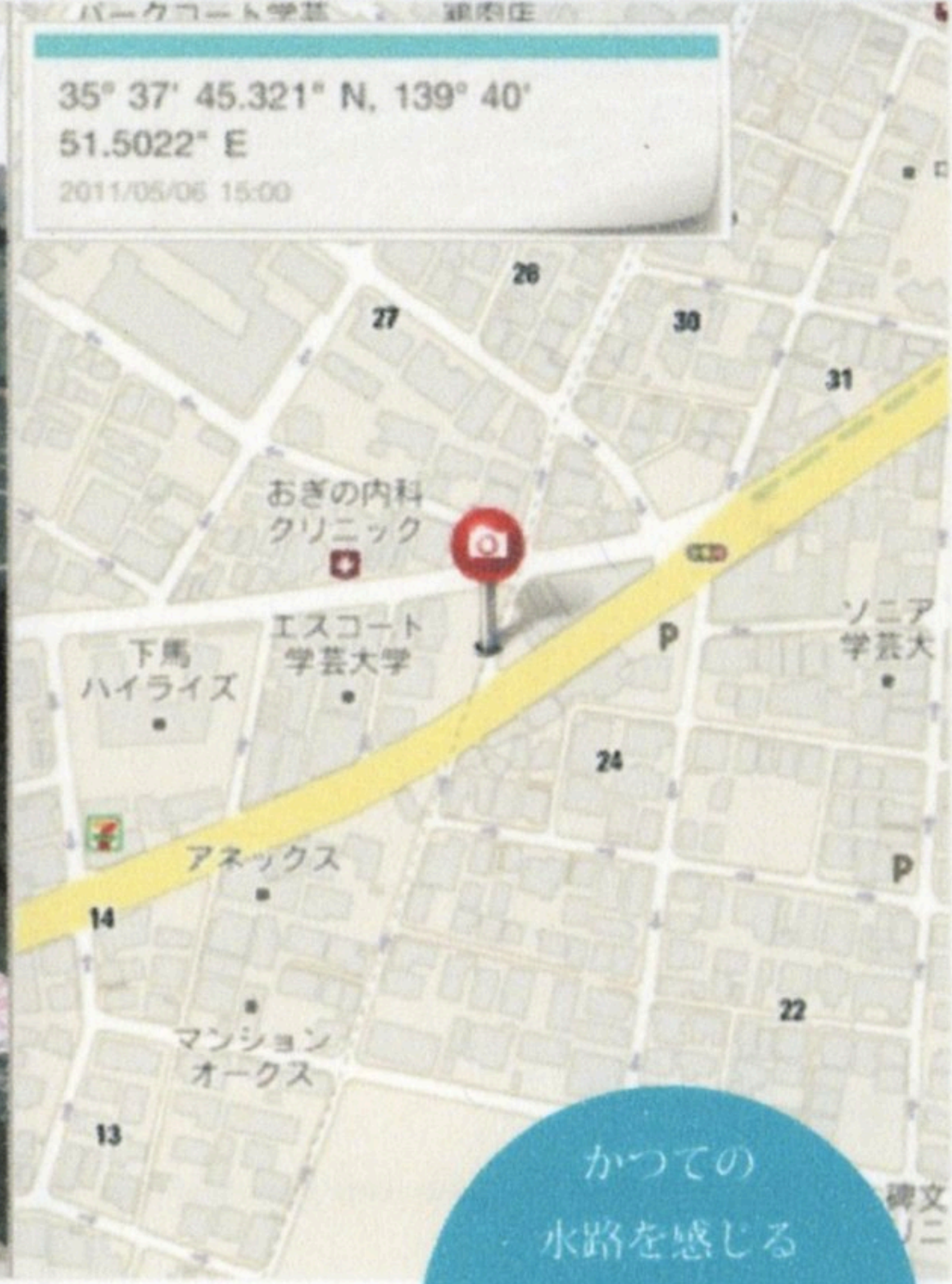
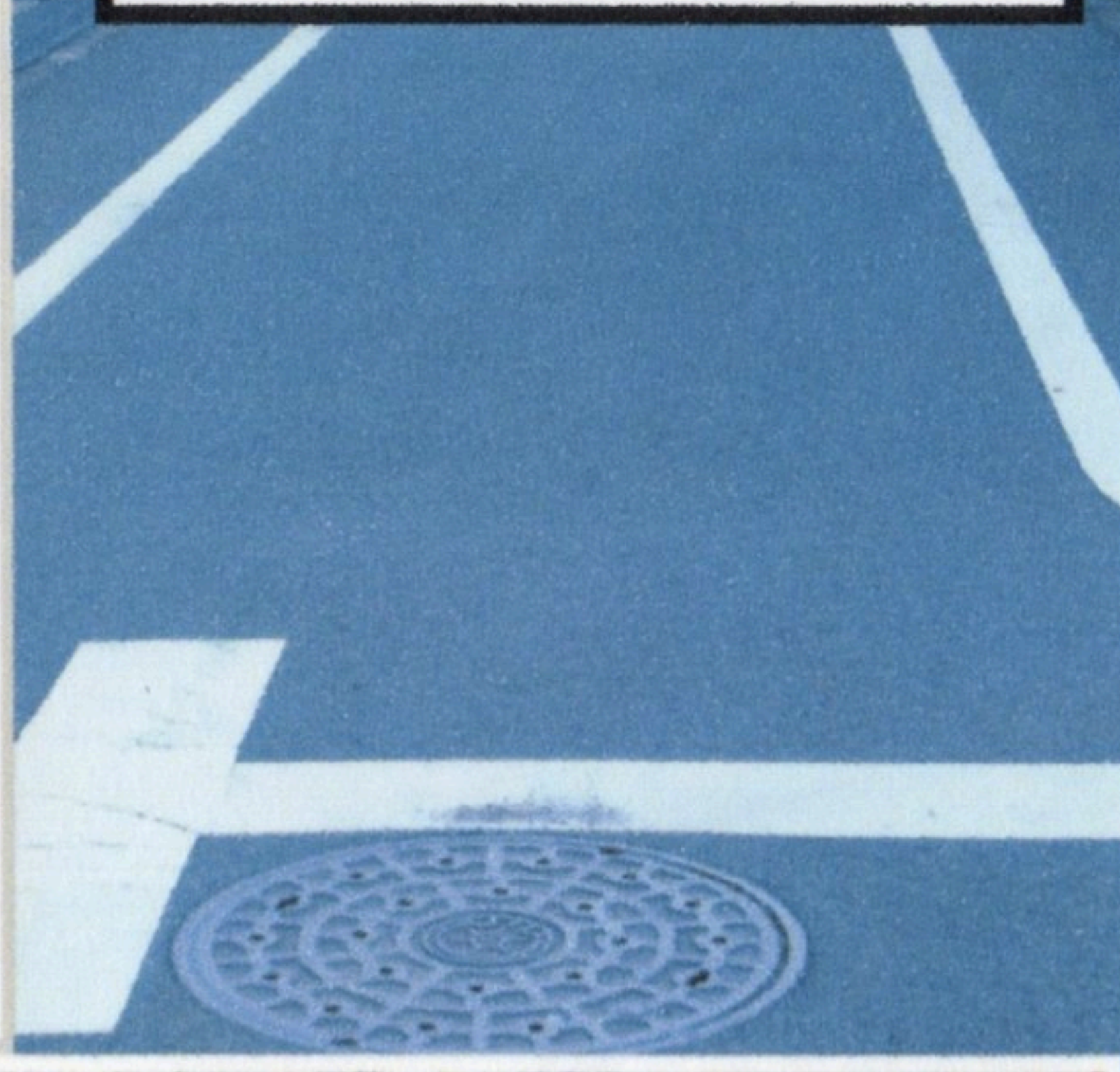
【関連するカード】

【キーワード】

かつての水路の変曲点
(S字やU字) のそばに水路
と直角に長く延びる道



分水路の痕跡を探す



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

21

水路があれば、周辺の土地に水を運ぶ分水路もあったに違いない。水路の形がS字やU字であった賑わいの地（型ことば 34 参照）の傍に、水路と直角に分水路が形成されたとしても不思議ではない。その中心地の傍に直角に交わり長く続く道を探し、水路の痕跡を見つけよう。痕跡がみつかったらその方向へのコミュニティ感のしみ出し（型ことば 27 参照）を想うことができる。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

連続して並ぶ
マンホール



水路を想う



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

22

水の流れは、人びとが集った痕跡である。いまではその流れは埋め立てられたり、地中に消えて見えなくなったりしていることが多い。だが、マンホールのフタが比較的短い間隔で並んでいたら、それはかつての水路に沿っていると考えられる。(頭のなかで補助線を描いて) マンホールのフタを結んでみると、水の流れが見えてくるはずだ。周りの風景の変化や、道の傾斜にも気を配りながら、かつての水路について考えてみよう。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

銭湯の煙突



水を想う

いまでは懐かしい、銭湯の煙突（あるいは店じまいした銭湯の名残）を見かけたら、かつては近所を水が流れていた可能性が高い。歩いている道は緩やかに蛇行していないだろうか。近辺に、コインランドリーはないだろうか。人びとの暮らし、集いには、水が必要なはずだ。酒屋、蕎麦屋、クリーニング店なども水の流れの近くに立地していることが多いかもしれない。道の傾斜や幅ばかりではなく、少し目線を上げて、店の看板にも目を向けて歩こう。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

立派な木が
点々と続く道

×
かつての水路であ
ることを感じる



かつての
水路を感じる
まち観の型ことば

24

かつての水路はコミュニティの中心であり、水路が続く方向にコミュニティは延びていたはずである（型ことば 27 参照）。幹が太く背の高い立派な木は、コミュニティのシンボルとして水路に沿って植えられたのかもしれない。立派な木が点々と続く道を発見したら、そこにかつての水路を想像してみよう。

【たとえばこんな場所】

①35.6291N, 139.6774E

②35.6004N, 139.7275E

【関連するカード】

【キーワード】

かつての水路から少し離れたところに大きな樹木

分水路の痕跡を探す



かつての
水路を感じる
まち観の型ことは

25

かつての水路に沿って大きな樹木があるのは自然（型ことは24 参照）だけれど、少し離れたところに胴回りの大きい背丈の立派な樹木をみつけたら、分水路の可能性を考え、その痕跡を探してみよう。水路からその樹木の方に分水路が延びていたんじゃないかと。

【たとえばこんな場所】

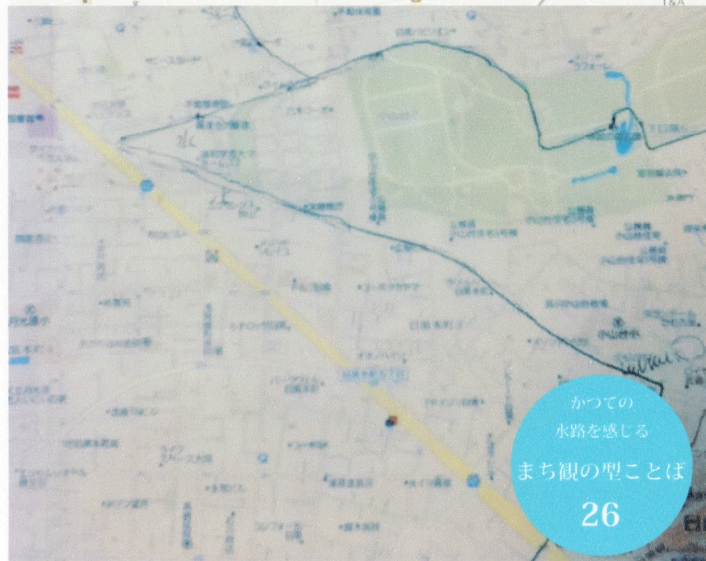
①35.6295N, 139.6773E

【関連するカード】

【キーワード】

X

X



【キーワード】

水路の痕跡が複数
ある道

×
コミュニティの延び
る方向を感じてみる



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

27

今も昔も水を求めて人は集まる。水路は社交の場であり、水を介してコミュニティ感が形成されていたはずである。道が延びる方向にコミュニティ感が延びる（型ことば 29 参照）という傾向は、その道に沿って水路が走っていればますます顕著になるのだろう。かつての水路の痕跡がたくさんある道を見つけたら、コミュニティが延びていた過去に思いを馳せてみよう。

【たとえばこんな場所】

①35.6221N, 139.7038E

②35.6205N, 139.7076E

③35.6161N, 139.7087E

【関連するカード】

【キーワード】



水路に沿ってコミュニティ感が延びる（型ことば 27 参照）とすると、水路が曲がる場所は2つのコミュニティの交わりの中としてかつてプラザ的な賑わいをみせていたに違いない。更に、そもそも水路が急な角度で曲がるというのは、自然の為せる業ではなく人為的な意図が反映されたものであろう。曲げた人（土地の権力者）がいるはずだ。そのあたり一帯は大きな地主が牛耳っていたのかもしれない。交差点周辺にそんな繁栄を想像し、痕跡を探してみよう。

【たとえばこんな場所】

①35.6104N, 139.7186E

②35.6245N, 139.6936E

【関連するカード】

【キーワード】



幅の細い道が直線状に延びている

コミュニティ感がどの辺りまで延びているかを感じてみる



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

29

低地に水はつきものである。水があると、水を共有する場がつくられ、ものが流通して人が行き交う。水を介したコミュニティの広がりや繋がりがある（型ことば 27 参照）。それに対して、台地では水は商われる対象である。コミュニティの広がりや繋がり希薄かもしれない。台地に人をつなぐものは存在するだろうか？ 低地と台地の両方を歩いて、土地の高低が人の繋がりを与える影響を考えてみよう。

【たとえばこんな場所】

①35.7018N, 139.7278E

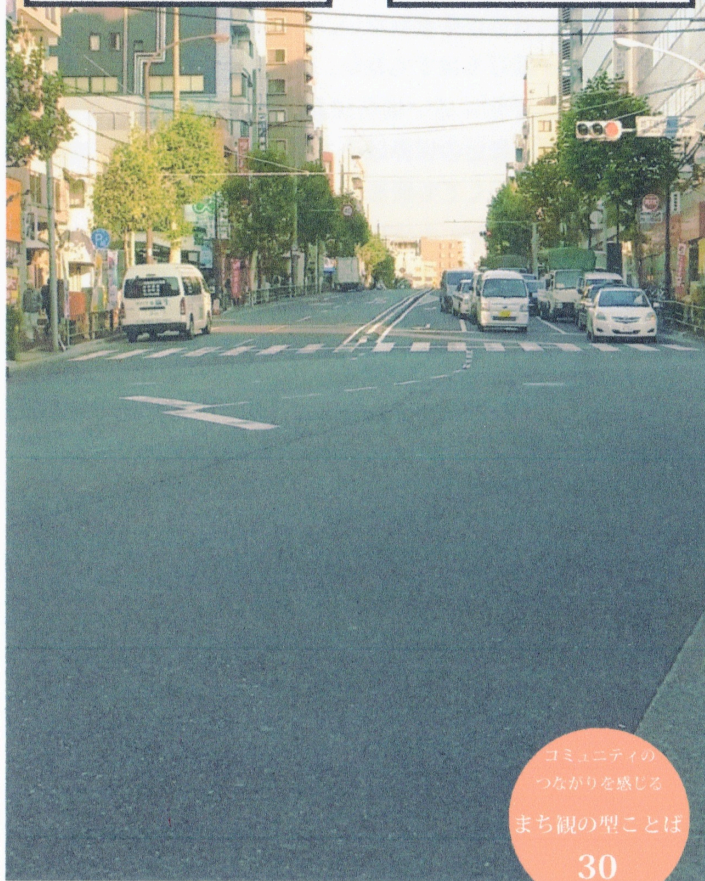
【関連するカード】

【キーワード】

大通りが直線状に延び、
上り坂になっている



坂を上って向こう側に行こうとは思えない心理的断絶がある



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

30

道幅が細ければコミュニティ感の延びは感じられるはず（型ことば 29 参照）なのに、大通りのように幅が広いだけで状況は一変する。幅が広過ぎると道の両側の距離があり過ぎてコミュニティの共有感が生まれない。だから道の延長方向にコミュニティ感が延びるはずもない。ましてや、軽い上り坂になっていて頂上が割に近い場所にある（その先は見えない）なんて状況だと、自分の世界はそこまで！という心理的境界を引いてしまう。短くても坂を上ってその向こうを見に行こうとは思えない。「軽い」上り坂というのも味噌かもしれない。急な坂の場合は、却って見えない向こうの世界を想う気持ちも生まれる（型ことば 36 参照）。

【たとえばこんな場所】

①35.7058N, 139.7201E

【関連するカード】

【キーワード】

直線状に細く続く道にアップ
ダウンがある & 道幅が急に
変わるスポットがある



道幅が変わる前後を行ったり
来たりして、コミュニティ感
のつながりの有無を考える



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

直線状に長く続く道の幅が急に変わるスポットがあるとき、アップダウンさえなければかつての水路かもしれない（型ことば 15 参照）。でもアップダウンがあるのなら水路の可能性はない。細く長く続いているためコミュニティ感は延びているはず（型ことば 29 参照）。でも道幅が急に変わるスポットがあると、そこでコミュニティ感が途切れるかもしれない。つながり感を断つ要因はなんなのか？ 道幅が変わる前後を行ったり来たりして考えてみよう。

【たとえばこんな場所】

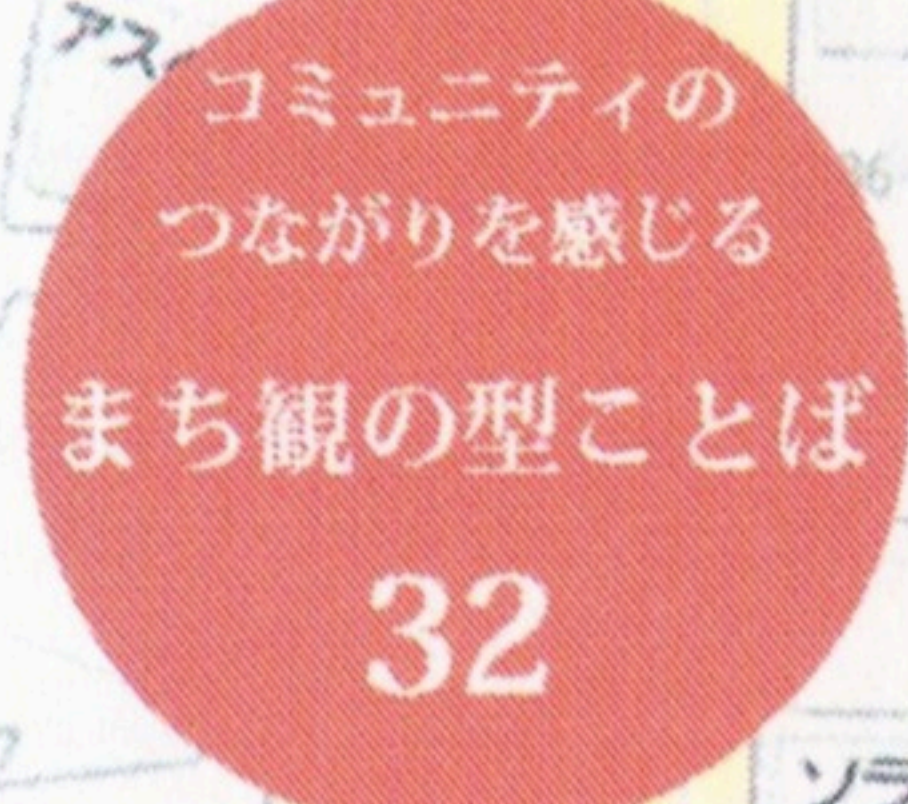
①35.7044N, 139.7237E

【関連するカード】

【キーワード】



が像



【キーワード】

道が直角に曲がって
いた場所

かつての市の賑わいの
痕跡を周辺に探す



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

33

水路が曲がる場所が繁栄の地であった（型ことば 28 参照）ように、道が直角に曲がる場所もかつて市の賑わいがあったに違いない。傍には寺院神社があり、門前町として栄えたはず。繁栄の地だったからこそ、いまでは大きな十字路になり、直角の痕跡は残っていない。大きな交差点の近くに大きな神社仏閣をみつけたら、昔の地図（例えば iPhone アプリ「東京時層地図」）で探してみよう。門前町として栄えた地であるならば、市が立っていた中心だけでなく、周辺路地にもその痕跡はあるかもしれない。

【たとえばこんな場所】

① 35.6104N, 139.7186E

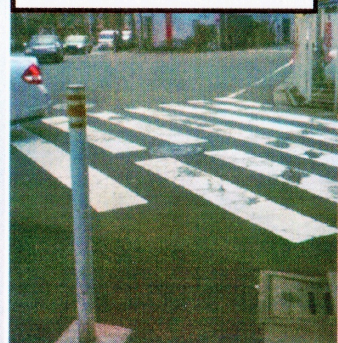
② 35.6245N, 139.6936E

【関連するカード】

【キーワード】

かつての水路がS字もしくはU字に曲がっていた

変曲点にかつての賑わいを感じ、接線方向にコミュニティが延びていたことを想う



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

水路がS字やU字の形に曲がる場所は、人がふと佇むアフーダンスがあったに違いない。賑わいを想像してみよう。S字やU字には変曲点が存在し接線方向が決まる。その方向に両側を眺めてみよう。賑わいのコミュニティ感はその方向にも延びていたのではないかと想えば、少しその場所が楽しくなる。今は大きな街道が貫き、元のS字やU字が目立たないので注意がいる。行政がコミュニティ感の延長を利用した証か？曲線が緩やかであればコミュニティ感の延長は長かったはずだ。

【たとえばこんな場所】

①35.6298N, 139.6823E (S字)

②35.6277N, 139.6932E (U字)

【関連するカード】

【キーワード】

台地と低地



人のつながり方の
違いを想う



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

35

低地に水はつきものである。水があると、水を共有する場が
つくられ、ものが流通して人が行き交う。水を介したコミュ
ニティの広がりや繋がりがある（型ことば 27 参照）。それ
に対して、台地では水は商われる対象である。コミュニティの
広がりや繋がり希薄かもしれない。台地に人をつなぐもの
は存在するだろうか？ 低地と台地の両方を歩いて、土地の
高低が人の繋がりを与える影響を考えてみよう。

【たとえばこんな場所】

①35.7018N, 139.7278E

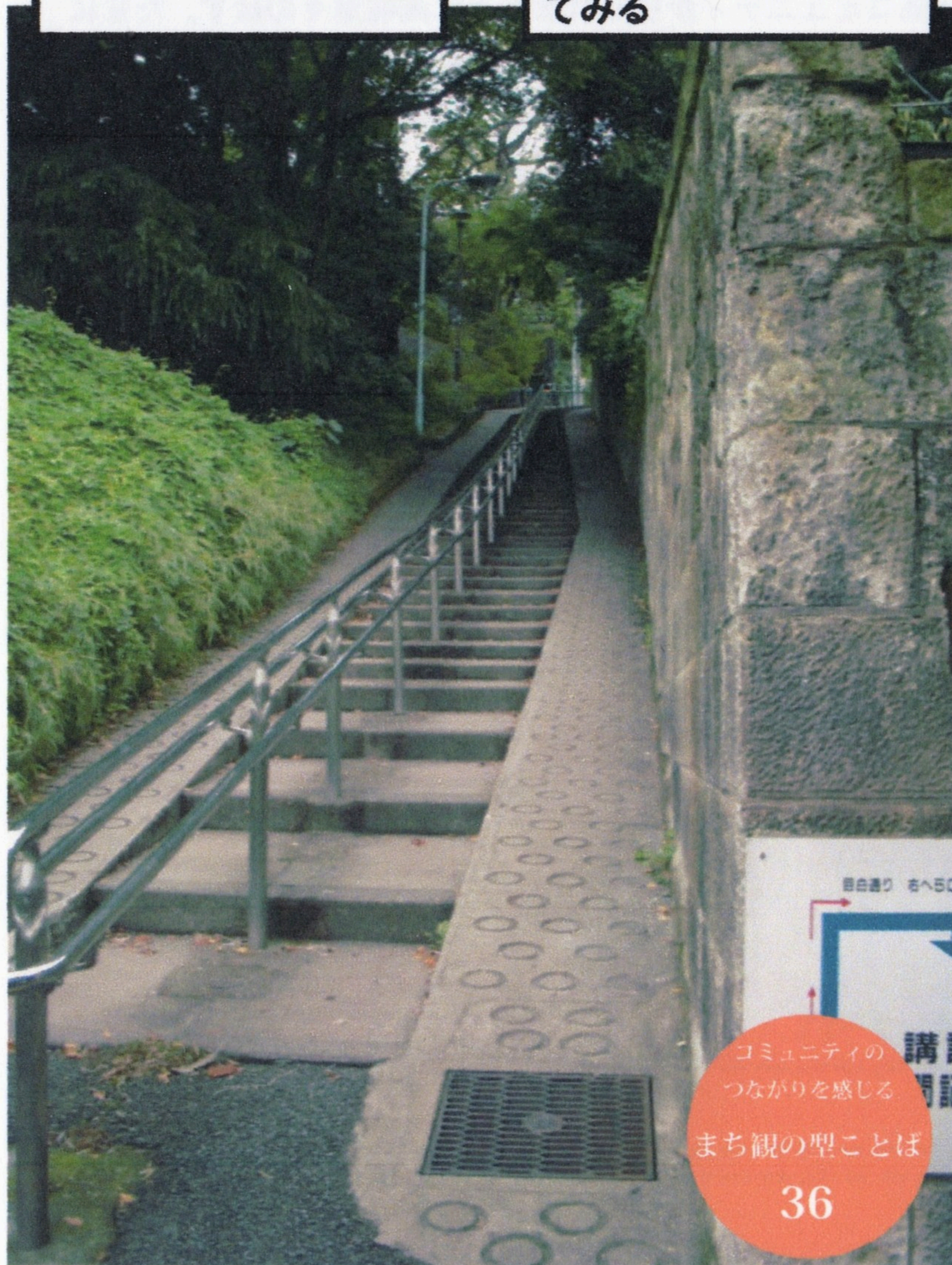
【関連するカード】

【キーワード】

細く登る急な坂道



台地に思いを馳せ、ときには思い切って登ってみる



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

36

川や水路が流れる谷筋のそばには、急にせり上がった台地がつきものだ。身体に堪えるから毎日登るわけじゃないけど、谷筋コミュニティからみれば坂上は興味津々のはず。たまには登ってみよう。身体への負担を感じながらゆっくり流れる時間が心のいい準備になる。登りながら草木の様子や湿度や街の音の聴こえ方が変わる様子に身体を敏感になってみよう。急な坂道は坂の上下のコミュニティをゆったりと仕切り。また繋ぐ良いインターフェースかもしれない。

【たとえばこんな場所】

①35.7124N, 139.7234E

②35.7008N, 139.7268E

【関連するカード】

【キーワード】

川もしくは水路に向
かって一様に緩やかに
傾斜する土地



水の流れを借景にし
ていた生活を想う



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

37

水は低きを求め谷を形成する。谷筋に向かって一様に緩やかに傾斜する場所は、家を建てて水を借景とすることに適している。生活の糧である水に近く、傾斜地で少し水から距離を保つことで水害の恐れは少なく、景色の面でも風通りの面（型ことば 14 参照）でも水音の心地よさの面でも（型ことば 13 参照）、住まう地として好都合な場所である。そんな生活に思いを馳せてみよう。

【たとえばこんな場所】

①35.7039N, 139.7257E

【関連するカード】

【キーワード】

装飾品の色や形

× コミュニティの
まとまりを感じる



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

38

歩いていると、まちを飾り、彩るさまざまな装飾品を目にすることがある。たとえば、商店街の街灯につけられた旗や通り沿いに設置された幟は、そのエリアに住む人びとの一体感や帰属意識を醸成するはたらきをしているはずだ。キャッチフレーズやキャラクター、カラーリング、形状などを観察してみよう。旗や幟の陳列がはじまる（あるいは途絶える）場所に、何らかのストーリー性はないだろうか。

【たとえばこんな場所】

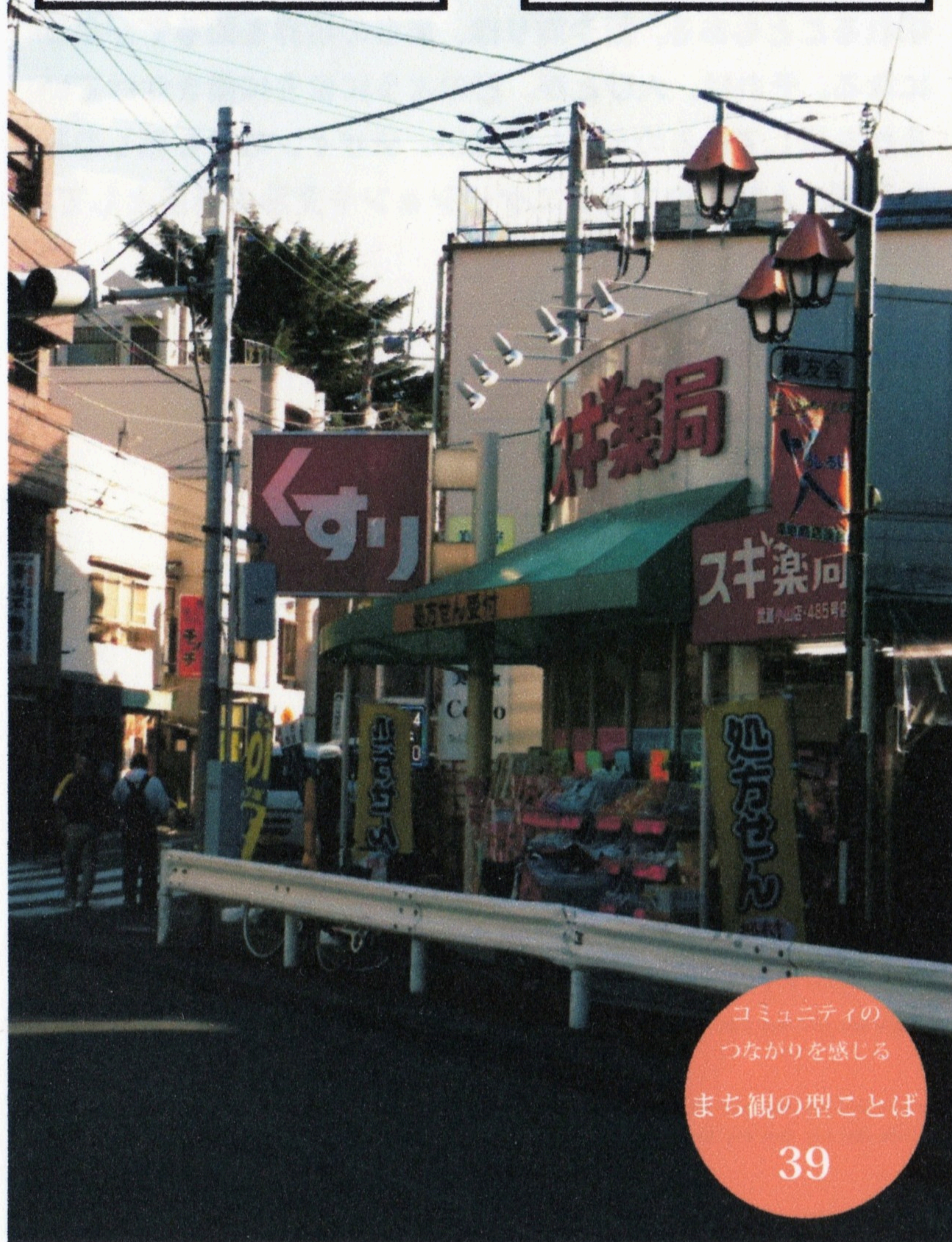
【関連するカード】

【キーワード】

まちの装飾品の変化



「境界」を感じる



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

39

商店街などの街灯に取り付けられている旗などの装飾品の連なりに目を向けて歩いていると、色の変化、デザインの変化に気づくことがある。あるいは、やや唐突にその連なりが途切れることもある。旗や飾りは、まちの境界を知る手がかりになる。それは、人びとが、どのようにまちに働きかけているかを示しているのかもしれない。デザインの善し悪しのみならず、人びとのコミュニケーションや交渉の所産として、装飾品を眺めてみよう。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

タイル・街灯・スト
リートファニチャー
などが変わる



(行政区域の) 境界
を感じる

まちを歩いていると、急にタイルや街灯、ストリートファニチャーなどの設えが変わることがある。それは、行政区域の境界であることが多い。その変化を感じよう。まちは、さまざまな形で手入れをされ、その環境が維持・保全されている。だが、人の手によっておこなわれているかぎり、どこも均一というわけにはいかず、誰の手によるものかという点が、風景に影響をあたえている。こうした手入れがどの程度行き届いているかによって、歩いているときの印象は大きく変わる。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

植栽が変わる

時間の変化を感じよう



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

41

並木道を歩いていると、通りを隔てて急に植栽（種類や太さ）が変わることがある。それは、昔からあった並木道が延長された跡かもしれない。あるいは、線路が地中化されて、かつての線路にそった緑化かもしれない。かつては連続的ではなかった木々の並びは、さまざまな計画によって変化している。

【たとえばこんな場所】

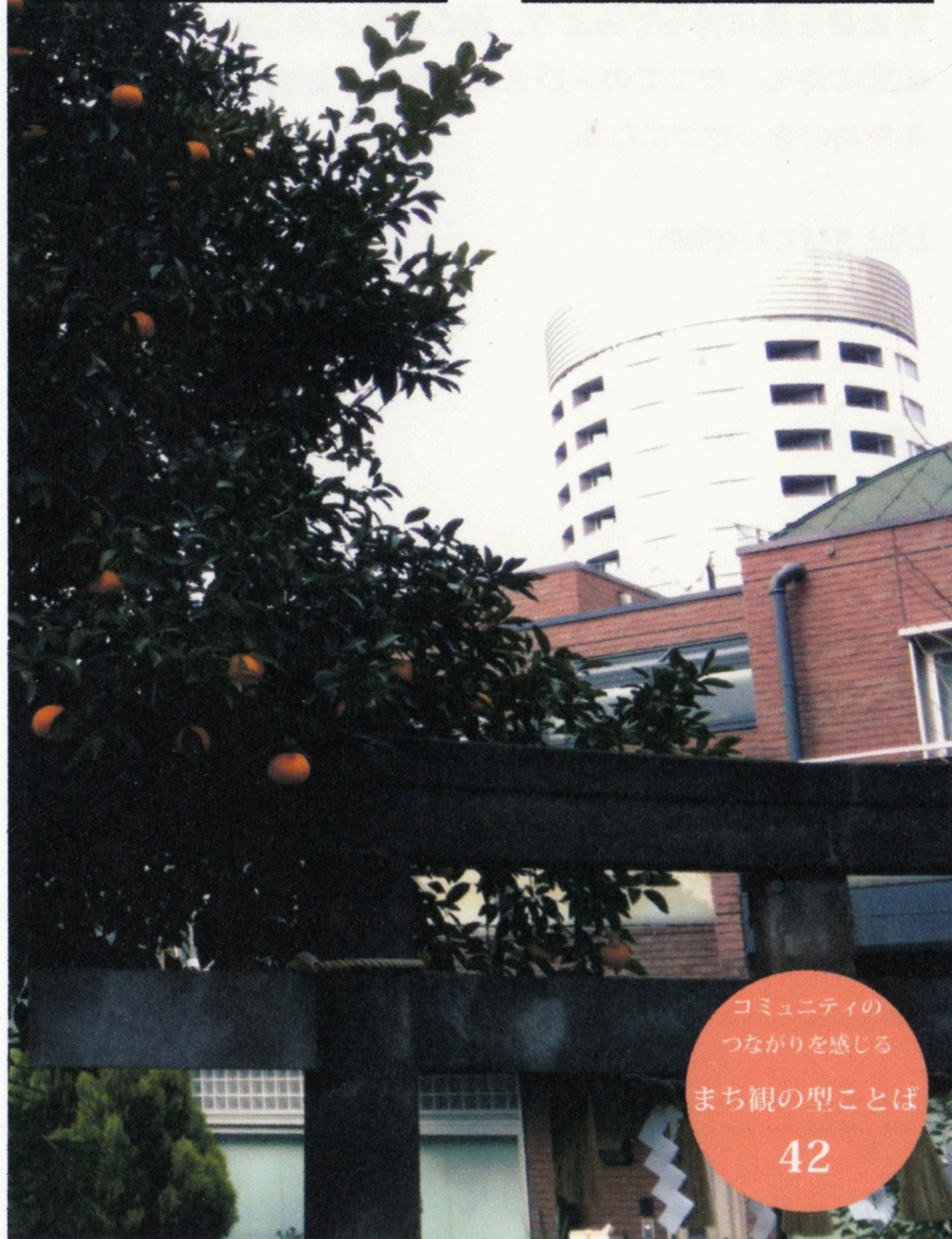
【関連するカード】

【キーワード】

神社・寺を見つける



コミュニティ・集
いを想像しよう



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

42

地図を眺めていて、神社・寺の記号があると、ふと立ち寄ってみたいくなる。まち歩きをしていると、不思議な吸引力を放っている場だ。人びとが集い、聖なる場所として意味づけていた風景を見に行ってみよう。水の痕跡と同じように、神社・仏閣の跡も、かつての人びとの暮らしや生活のにおいを感じるためのきっかけになる。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】



神社・寺の緑や大
きな木が見える



時間の流れを感じ
よう

神社・寺は、木々に囲まれている（囲まれていた）ことが多い。それは、地図上でも確認できるだろう。ある程度離れていても、大きな木やまちの中でこんもりと茂った緑を目指して歩けば、神社・仏閣（あるいはその跡）にたどり着くことができる。たとえば、樹齢数百年という大きな銀杏の木がいまなお立っているとすれば、その木はかつての人びとの暮らしや生活に寄り添って来たということだ。時間の流れを感じながら、当時の風景を思い浮かべよう。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

台地の崖の際に大きな敷地と建物



低地と台地のコミュニティが断たれる



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

44

台地と低地を繋ぐものは坂道しかない（型ことば 36 参照）。坂道の上に立てば低地一帯を見渡せるし、下ってみようと興をそそる。でも台地の崖の際に大きな敷地や建物があると、低地への見えが邪魔され意識に上らなくなる。低地からみても台地の際に立つ建物は威圧的で親和感を抱きにくい。結果的に低地と台地のコミュニティ感は断たれる。台地内のコミュニティ感は低地に比べて希薄（型ことば 35 参照）かもしれないのだから、せめて低地への繋がりを断つことは避けようよ！

【たとえばこんな場所】

①35.7021N, 139.7272E

②35.6316N, 139.7135E

【関連するカード】

【キーワード】

行政区域の境界



人びとのコミュニケーション（交渉・闘争・合意）を想う



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

45

行政区域の境界は、地図上に描かれたバーチャルな線である。地図上に境界を示すという意味では恣意的・人工的なので、人びとの暮らしを分け隔てているとはかぎらない。なぜ、その場所に行政区域の境界線が描かれているのだろうか。その線を境に、何らかの変化・相違があるかどうかを観察してみよう。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

区割りの大きさが異なる
住居地域が隣接する



心理的なコミュニティ
断絶感が生まれる



コミュニティの
つながりを感じる
まち観の型ことば

46

細い道路一本隔てただけなのに、土地の高低差もないのに、区割りの大きさ・整然さが異なるだけで、両地域のコミュニティ感はぷつんと断絶される。宅地開発が全体秩序なくつぎはぎに行われて来た爪痕に遭遇すると寂寥感さえ覚える。高低差がないだけに行き来するのに身体的障壁はないのに、互いに越えようとはしない心理的断絶があるのは深刻だ。「あっちで遊んじゃ駄目よ」というお母さんの声が聞こえそう。子どもの無邪気な探究心も削がれるだろうなあ。

【たとえばこんな場所】

①35.6998N, 139.7293E

②35.7012N, 139.7287E

【関連するカード】

【キーワード】

斬新なデザインの
建物が目に入る



まちのキャパシティ
を想う



コミュニティの
キャパシティを感じる
まち観の型ことば

47

まちを歩いていると、奇抜な意匠の建物が目に入ることがある。デザインのガイドラインが希薄であることを憂うのか。それとも、建築家やデザイナーたちの、斬新な実験を許す寛容なまちとして理解するのか。許容度（キャパシティ）に満ちたまちは、多様性を受け入れることができるはずだが、一歩まちがえると、それはアイデンティティの希薄な風景をつくり、まち並みそのものが崩壊していくことになるだろう。意匠や色彩に目を向けて、まちの度量ともいうべきものを考えてみよう。

【たとえばこんな場所】

【関連するカード】

【キーワード】

水路が延びる先に大きな川がある



まちが川の方に向いていることを認識する

神田川

早稲田

コミュニティの
キャパシティを感じる
まち観の型ことば

48

水路に沿って少し進むだけで大きな川に辿り着くような地域は、まち全体の意識がその川に向いている。水が流れる方向には楽に歩ける。水路が注ぎ込む川は都市の中心地に繋がる。人の意識がそっちに向くのは自然だ。世の大半の大学が台地にあるのに、早稲田大学が低地にあるのは敢えて選んだことなのだろう。早稲田は神田川の方を向き、神田川を通じて俗世間と相交わることを目指したに違いない。まちがどっちに向いているかに思いを巡らせると、住む人の視線が手に入る。

【たとえばこんな場所】

①35.7093N, 139.7193E

【関連するカード】

【キーワード】

台地を背にする寺



視線も想いも寺で留まり、台地にはつながり感をもてない



お寺は山や台地を背にして立つことが多い。お寺はときどき訪れては心を癒し自分と向き合うための、コミュニティのなかで特別の意味を持つ異空間である（型ことば 42 参照）。古くから山は信仰の対象なので、台地を背に立つお寺は台地に守られた特別感が高い。逆に言えば、低地コミュニティからすれば、台地そのものにはつながり感を感じにくいかもしれない。視線も想いも、台地に守られたお寺空間でストップする。

【たとえばこんな場所】

①35.7003N, 139.7268E

②35.7009N, 139.7259E

【関連するカード】

【キーワード】



コミュニティの
キャパシティを感じる
まち観の型ことば